平成　22　年度　**事務事業マネジメントシート**　作成日　平成　22　年　7　月　23　日作成

事務事業名	コード 40250	道路施設(舗装・側溝)及び河川維持補修工事設計・監督業務			
政策名	総合計画体系 01	定住と交流を育むまち	所属部	建設部	所属課 工務課
施策名	02	交通体系の整備	所属係	工務係	課長名 吉田　米一
基本事業名	01	道路の整備			電話番号 72-7623 (内線) 775-214
予算科目	会計 1 / 款 7 / 項 2 / 目 1	地域再生中心市街地地区整備事業費	法令根拠	なし	
事業期間	☐ 単年度のみ　☐ 単年度繰返　☑ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 18 年度 ～) (19 年度 ～ 23 年度)				

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

道路施設及び河川維持補修工事設計・監督業務　現場確認→測量→設計→発注→監督

全体計画(期間限定複数年度のみ)　(単位;千円)

総投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金
			都道府県支出金
			地方債
			その他
			一般財源
		事業費計 (A)	0
	人件費	正規職員従事人数	
		延べ業務時間	
		人件費計 (B)	0
	トータルコスト(A)+(B)		0

1　現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

21年度実績(21年度に行った主な活動)
・修繕要望箇所の現地調査
・要望箇所の工事設計、発注、監督業務

22年度計画(22年度に計画している主な活動)
・修繕要望箇所の現地調査
・要望箇所の工事設計、発注、監督業務

② 対象(誰、何を対象にしているのか)＊人や自然資源等
・市道の通行者(自動車・歩行者等)及び周辺住民の家屋財産。

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
・通行者の安全確保をする。
・河川氾濫時の災害防止及び良好な排水状況を確保し家屋等への影響を防ぐ。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
・必要な道路が整備されている。
・安全な通行ができる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	工事件数	件
イ	調査件数	件
ウ		

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	管理箇所数	箇所
イ		
ウ		

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	修繕件数	件
イ		
ウ		

⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	生活に必要な道路が整っていると感じている市民の割合	
イ	道路を通行するときに危ないと思っている市民の割合	
ウ	市道改良延長	

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(成行予測)	24年度(成行予測)	25 年度(成行予測)
投入量 事業費 財源内訳	国庫支出金	千円							
	都道府県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円	36,585	38,445	38,197	37,000	37,000	37,000	37,000
	事業費計 (A)	千円	36,585	38,445	38,197	37,000	37,000	37,000	37,000
人件費	正規職員従事人数	人	6	6	4	4	4	4	4
	延べ業務時間	時間	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200
	人件費計 (B)	千円	19,760	19,760	19,760	19,760	19,760	19,760	19,760
トータルコスト(A)+(B)		千円	56,345	58,205	57,957	56,760	56,760	56,760	56,760
活動指標	ア	件	76	99	84	90	90	90	90
	イ	件	90	110	115	130	130	130	130
	ウ								
対象指標	ア	箇所	1,528	1,529	1,534	1,353	1,363	1,373	1,390
	イ								
	ウ								
成果指標	ア	件	76	99	84	90	90	90	90
	イ								
	ウ								
上位成果指標	ア			62.62	76.22	76.22	76.22	76.22	76.22
	イ			83.44	61.81	61.81	61.81	61.81	61.81
	ウ			223.34	239.88	239.88	239.88	239.88	239.88

事務事業名	道路施設（舗装・側溝）及び河川維持補修工事設計・監督業務	所属部	建設部	所属課	工務課

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

市が管理する道路及び排水路、河川の機能を維持するため。

② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

新規認定市道及び新設工事により、毎年管理路線数が増加している。また、構造物の老朽化が進み修繕箇所の箇所数が増加している。

③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

重大な事故につながる場合もあり、早急な対応が求められる。

2 評価の部（SEE）＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市（町）の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 結びついている ⇒【理由】 道路及び排水路、河川の維持は、住民生活に密接している重要な事業である。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市（町）が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 妥当である ⇒【理由】 市の管理する道路及び排水路、河川を維持管理するのは妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 適切である ⇒【理由】 市の管理する道路及び排水路、河川。
有効性評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 向上余地がない ⇒【理由】 本事業は、部分修繕が主でありそねにより構造物の長寿命化を目的としているのでこれ以上の成果は期待できない。それ以上の改修が必要となれば、改良等の他事業で対処する事となる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 影響有 ⇒【その内容】 住民生活に支障をきたす。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには，この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある （具体的な手段，事務事業） 小規模な部分修繕を目的とし、他事業とは性質が異なる。 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 小規模な部分修繕を目的とし、他事業とは性質が異なる。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 管理対象物が減ることなく、構造物の老朽化がさらに進むため削減することは不可能である。
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 管理エリアが非常に広く、施設の老朽化により修繕が必要な箇所は増加する傾向にあるため業務時間を削減することは不可能である。
公平性評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☑ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 地域性による修繕依頼度にひらきがあり、修繕状況に格差ができている。 パトロール体制等の取組を実施し、公平な管理が必要と思われる。

事務事業名	道路施設（舗装・側溝）及び河川維持補修工事設計・監督業務	所属部	建設部	所属課	工務課

3　評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）（PLAN）

(1) 1次評価者としての評価結果

① 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
② 有効性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
③ 効率性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
④ 公平性	☐ 適切	☑ 見直し余地あり

(2) 全体総括（振り返り、反省点）

市が管理する市道・排水路・河川は、非常に数が多く全ての状況確認が困難であり維持修繕の地域格差がみられることから、パトロール体制等の強化を図り、住民が安全安心に暮らせるように勤める必要がある。

これまで、ある程度地元で行ってきた維持管理が、住民の高齢化により困難となってきているため、今後の対応について検討が必要となっている。

(3) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止　☐ 休止　☐ 目的再設定　☐ 事業統廃合・連携　☐ 事業のやり方改善（有効性改善）
☐ 事業のやり方改善（効率性改善）　☑ 事業のやり方改善（公平性改善）
☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(4) 改革・改善による期待成果
（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革，改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

広大な管理面積に加え、箇所数が非常に多いことから状況把握にはかなりの労力を要するのでパトロールの強化が必要である。

高齢化により地元で実施できなくなった維持管理をどういう形で実施していくか、たとえば直営班の増設あるいは委託が必要でないかと思う。